

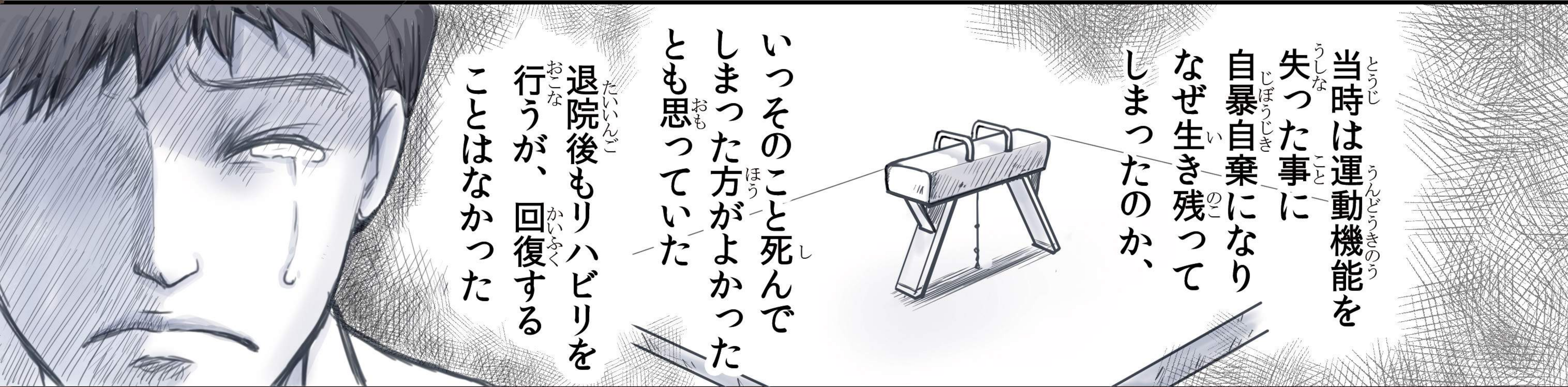


生きる勇氣

わたしは口で描く画家、
古小路浩典

中学三年生の時
器械体操クラブの
練習中の事故により
肩から下がマヒしている

今は「口と足で描く
芸術家協会」に所属し
画家として自立をしている



当時は運動機能を
失った事に
自暴自棄になり
なぜ生き残って
しまったのか、

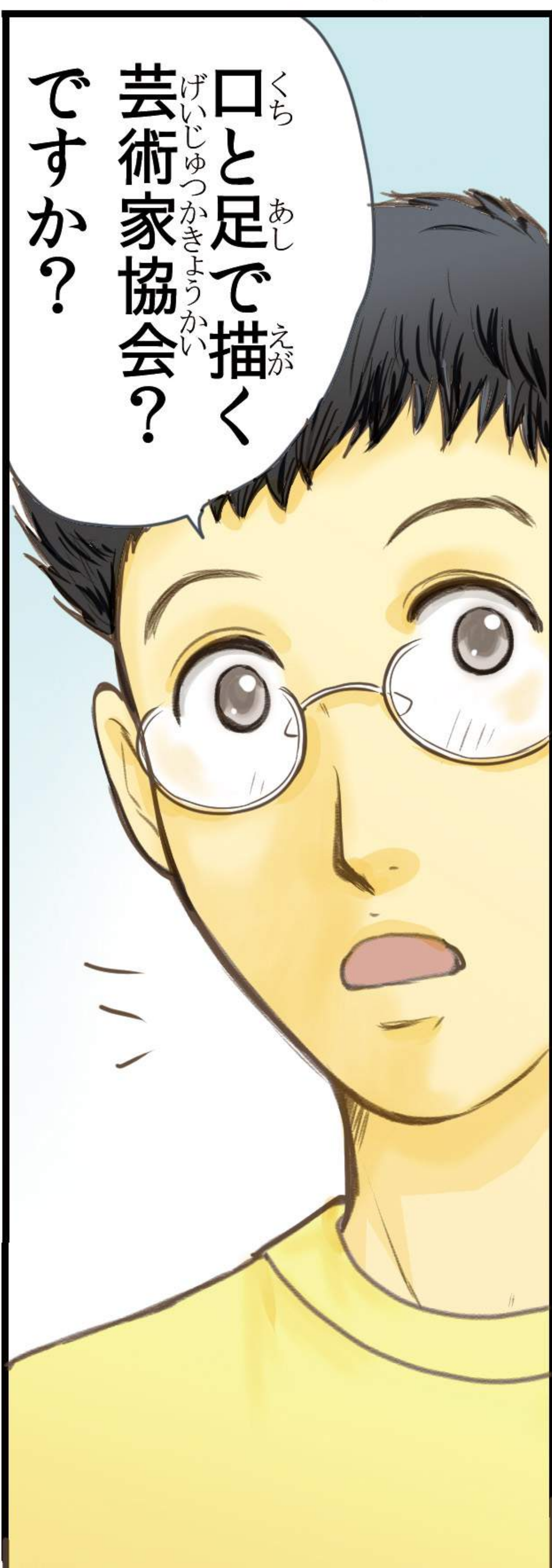
いつそのこと死んで
しまった方がよかった
とも思っていた

退院後もリハビリを
行うが、回復する
ことはなかった



ええ古小路さんと
同じような境遇の
方々が画家として
活動しているんです
今度、話を
きいてみま
しょう！

ははあ…



口と足で描く
芸術家協会？
ですか？



そのリハビリの
一貫で、口に
筆をとって
絵を描いて
いた時の
ことだった
古小路さん
口と足で描く
芸術家協会って
知ってる？

後日、協会の資料を
取り寄せてみた

こ…これは！

ほんとにこれ
口と足だけで
描いているん
ですか？

ええ
そうなん
ですよ

口と足で描く
芸術家協会とは
両手を使えない
障がい者が
自立を目指して
口や足に筆をとって
絵を描く画家たちの
グループなんです

世界中で
たくさんの方が
活動してるん
ですよ！

僕も…
やってみたい
…！

素直に衝撃を
受けたと同時に

真つ暗な将来に
光が射したように感じた

協会の
奨学金は

先生、これで
どうですか？

参加している
障がい画家
たちが自ら
作り、

障がいを負った若者に
絵を学ぶ機会と
生きる勇気と希望を
与えている

十年後…

それまでは先生と
会うのが楽しくて
絵を描いていたが

初めて個展を開く
ことにチャレンジした

ひきこもりがちだった
生活に大きな刺激を与え
積極的な外に出るようになった

そんなある日…

父さん
母さん

僕、一人暮らし
してみる

えっ?!

どうやって
一人で暮らして
行くんだい?

僕にとっての
自立とは、社会の
中で絵を描いて
生きていくこと

だから

父さんや母さんに
面倒みてもらって
ばかりじゃダメ
だし自分自身で
生活したいんだ!

今、絵を描くことが
すごく楽しいんだ

協会で僕の絵が
グッズ化され
それを使ってくれる
人が一杯いるんだ

その売り上げで生活
できると思うし
それに自分を助けて
くれたように、
若い人たちへの
奨学金になるんだよ!

正直、はじめて
数年は心細い
こともあった

しかし二十年
たった今でも
東京で生活
している

ちゅうがくさんねん
中学三年の時の
きかいたいそう
器械体操の事故は
自分の人生を大きく
変えたものだ

ただ、決して
悲観的なことだけ
ではない

画家になるなんて
おもってもいなかった
自分に、画家になるという
選択肢を与えて
くれたのだから



いまは、
企画を含めた
ブループロ展の
定期開催に
力を入れ

絵本制作も
したいと
考えている

きょうかい
協会に参加したことにより、
おなじなや
同じ悩み、気持ち、志を
持つ仲間とも出会えた

好きな人物画や
グッズになる
イラスト以外にも
さいきんちようせん
最近挑戦し始めた
ほんかくてき
本格的な風景画を
もつと描いて
いくという

あたらしい
新しい
目標を
持ちながら

きょう
今日も毎日、
えが
絵を描き
つづ
続けている

